

ノートにめあてを書き、青えんぴつでかきまじよう。

めあて

生活の中で気づいたことや、おどろきなどを俳句に表してみよう。

- ① 教科書の六ページ「1材料を集めよう。」読んで、生活の中で気づいたことや、おどろいたことなどをノートに短い文章で書きまじよう。※めやすは百字程度です。

教科書の例

この数日、いい天気だったけれど、今日は久しぶりに雨がふった。庭に出てみたら、あじさいが雨にぬれていた。花や葉っぱに雨が当たって、動いていた。あじさいは、雨に当たるのがうれしそうだった。

教育委員会動画の例

「この数日、あたたかい日が続いていたが、昨日は、強い雨がふって冬のように寒い一日だった。外は、びゅうびゅうと音を立てて強い風がふいていた。  
桜の木の葉っぱが風で大きくゆれていた。葉っぱも雨に打たれ、びっしょりぬれて寒そうだった。」

- ② 教科書六ページの季語の例を参考に俳句を作り、ノートに書きまじよう。

- ③ 教科書六ページや左の「三つのポイント」を読み、②で自分が作った俳句の表現を工夫しましょう。工夫して、よりよくなった俳句をノートに書きまじよう。

### 新石青葉くんによる表現の工夫の三つのポイント☆

- ①「あじさいたちが おどろいた」のようなたえを使ったり、「えんぴつたちが」のように様子を音で表したりと、自分らしく工夫して言葉を選んでみよう！
- ②「雨の歌 あじさいたちが おどろいた」と「あじさいが 雨の歌で おどろいた」は、同じ様子を表していても印象に残るものが変わる。この「あじさいの言葉の順序を工夫してみよう！

- ③どの文字で書き表すかも、印象が変わるよ。「漢字」は強い感じ、「ひらがな」はやわらかくてやさしい感じ、「カタカナ」はかたいとか、現代的な感じとか、自分なりに感じたことと合う表現になるよと工夫。



# 五年 国語 古典の世界（一）P六四～六九

めあて

古文を音読したり、暗唱したりして、言葉のひびきやリズムを楽しもう。

- ① 「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほそ道」を音読しましょう。すらすら読めるようになるまで練習しましょう。練習したら**音読カード**に記入しましょう。

教科書の「QRコード」がご利用できます。読みが合っているか、確かめてみるのもおすすめです。



- ② 「竹取物語」「平家物語」「徒然草」「おくのほそ道」の中から、自分で一つ選び、暗唱できるようにしましょう。少しずつ区切りながら何度も読んでみるとうえです。どうしても難しければ、一文でもよいです。※登校再開の時に、聞かせてください。

※ノートにめあてを書き、**青えんぴつ**でかきまきましょう。

めあて

現代語訳を読んで内容を知り、昔の人のもの見方や感じ方について考えよう。

- ③ 教科書の六六～六九ページの四つの古典について、現代語訳や解説を読んで、感じたことや、考えたこと、印象に残った表現、今の時代と似ている点や異なる点を**ノート**に書きましょう。※めやすはノート半ページです。

- ④ 学習の振り返りを行いましょう。音読・暗唱を通して感じたこと、現代語訳や解説を読んで考えたこと、古典の学習で気をつけたことなどを**ノート**に書きましょう。



NHK for School の「おはなしのくにクラシック」の動画を見てみると内容が深まります。第1回「竹取物語」第4回「徒然草」第5回「おくのほそ道」第9回「平家物語」です。